

防災の管理について問う

安全確保は図られている



諸木 悦朗 議員

を移管している事から、運営、管理は青松会が担っている。月一回は地震や津波発生時の訓練も、実施されて安全確保も図られている。

建物が壊れた時の責任は

諸木議員

地盤の弱い所に設置してある建物は無償譲渡ではない無償貸与だと思うが、災害で建物が壊れた時の責任はどちらにあるのか。

町の責任である

町長

大丸保育園は、いずれ譲渡するという方向で他の保育園と同様の対策を取っていききたい。地震が発生して建物が倒壊した場合には、建物自体は町の所有物なので町の責任である。

移転の際は丸地区に

諸木議員

現に建物の周りを見ると、沈下している状態である。移転等を考えているのであれば、丸地区にお願いしたい。

地元の方と十分な話し合いを

町長

経営者側としては、少しでも高台へという考えであると思う。新たに造られる段階になったら、事前に地元の方々とは充分話し合っ、結論を出していこうと考えている。

本庁舎の耐震診断の結果は

諸木議員

昨年、本庁舎の耐震診断をされているが、結果を踏まえ、本庁舎の建て替か、それとも、耐震補強か、どちらの考えなのか。

補強工事が必要である

町長

補強工事が必要と判断され、安全性の課題が明らかになった。安全性を確保した施設の整備を早急に図っていく。合わせて老朽化した壁とかクロス、床とか色々剥がしている所も、改修してやっていく考えである。

日常や毎月の定期点検を実施している

教育長

町内の小中学校については、児童生徒の安全確保を図るために、学校安全計画を策定し、校舎内外、体育施設、遊具の日常点検や毎月の定期点検を実施している。なお、

中木低木は用務員が行っている

教育長

高木については、年々管理が厳しい状況になっている。中木や低木などの管理については、学校用務員が日常業務として作業を行っている。高木の枝打ちや伐採については、事業者のボランティア作業として、年次的に整備していく。

校内の木々の管理は

諸木議員

学校内の樹木管理について、周りの木がフェン

町長 大丸保育園は、「社会福祉法人青松会」に運営

訓練等で安全確保は図られている

大丸保育園は、昭和48年5月に開所され、平成26年4月に民間移管した。築43年ほど経過し、老朽化も激しい。また、海抜5メートルから7メートルの所に位置している。4月14日と15日未明に発生した、熊本地震は熊本県全土に甚大な被害をもたらした。この様な状況の中、園児、児童、職員



大丸保育園

小・中学校の遊具の点検は

諸木議員

本町における小学校の遊具と中学校の鉄棒の点検についてはどの様にされているのか。



学校施設の樹木の状況